

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500241		
法人名	医療法人 緑風会		
事業所名	グループホーム成長苑		
所在地	徳島県板野郡藍住町勝瑞字成長55-1		
自己評価作成日	平成22年7月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigo.tokushakyo.ip/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671500241&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でケアを行い、利用者の体調管理に配慮している。母体法人の医療機関の医師や看護師と24時間体制で連携を図り、医療的な処置や診察などにおいてきめ細かい対応をしている。夜間は各ユニットに夜勤者を1名配置し、利用者のニーズに応えられるよう努めている。事業所内の庭に野菜などを植えて食材にするなど、自然とふれあう機会を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近隣にスーパーや小学校、神社等があり、買い物や散歩に出かけやすい環境にある。事業所の庭は広く、桜や梅の木、花壇、菜園、屋根付きの休憩所も作り、戸外で過ごす時間が多くなるよう工夫しており、利用者も穏やかな表情で生活している。各ユニットごとに夜勤者を配置し夜間の安全を確保するとともに、母体医療機関と連携を図り、状態変化時にも安心して暮らせる体制を整えている。管理者と職員は、事業所の理念を十分に理解し、力を合わせて利用者を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			第1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が目指すサービスのあり方を表した理念をつくり、日ごろから実践している。具体的な支援方法を職員間で話し合っている。	開設当初からの理念を大切にしながら、職員間で意見を出し合って地域密着型サービスの意義をふまえた理念の見直しに取り組んでいる。理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と利用者がつながりあいながら暮らせるように、地域の一員としてできるだけ行事に参加している。小学生との田植えや稲刈り、運動会、鈴虫の巣作りに参加している。	老人会や小学校、幼稚園の行事に参加し、地域との交流を楽しんでいる。また、散歩時や毎日通うリハビリの往復、待合室で挨拶を交わすなど、近隣の人々との日常的な交流を大切にしている。野菜を差し入れてくれる人もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解のために支援方法の指導などを地域の方に呼びかけるなどの活動はできていない。今後、認知症の理解のための支援をしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、参加者と話し合ったり運営について相談をしている。参加者から意見を出してもらい、サービスの質の向上に活かすよう心がけている。	地域包括支援センター職員や民生委員の参加のもと、年6回開催されている。運営推進会議をサービスの質の向上や地域との繋がりを継続する貴重な機会と捉えている。利用者の参加は多いが家族の参加者は、決まった人だけになっている。	家族の参加による活発な会議の開催に向けて引き続き家族へのアプローチを行い、本会議がより一層双方向的なものになるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者に月1回、利用者数等を報告している。事故等の報告を行い、健全な運営ができるよう心がけており密に連絡を取っている。	毎月の報告や要介護認定の申請時に町担当者を訪問している。地域包括支援センターには入居状況の連絡を行っている。事故報告やスプリンクラー設置に関する相談等の機会には訪問し、連携を密に図るよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束の具体的な行為を理解して、身体拘束をしないケアを全職員が取り組んでいる。	全職員を対象に、身体拘束の内容とその弊害に関する研修を行っている。勤務体制を整備し、身体拘束になり得る具体的な行為について検討し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者への虐待が見逃されることがないように、常に職員と管理者が話し合って解決するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			第1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は権利擁護に関する知識が不十分なため、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、必要な時に活用できるよう研修が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居後の生活に不安がないよう、一人ひとりの立場に立って契約時や解約時の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見を運営に取り入れるよう努めている。家族の来苑時に職員や管理者と接して率直な意見を出してもらい、サービスの質の向上に活かしている。	家族の来訪時に意見交換を行い、出された意見や要望を運営に反映させるよう努めている。また、利用者の担当職員は決めておらず、利用者や家族が誰にでも話せるよう雰囲気配慮している。苦情箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者や代表者は職員が働きやすい環境で向上心を持って働けるよう心がけている。夜勤職員を2人体制にする等、職員の希望を反映したシフトにしている。	毎日の申し送りの後に時間をとり、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。備品の更新や必要物品のレンタル、夜勤職員を2人体制にするなど、出された意見や要望を検討して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の努力や実勢に応じて給与に反映している。また、職場環境や資質向上の支援に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識し、全職員の資質向上が図れるよう事業所内で研修を行っている。また、介護実践に役立つ書籍の購入や新人教育に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所は全国グループホーム協会に加入し、サービスの質の向上に取り組んでいる。地域の他事業所と相互研修を行っている。		

自己	外部	項目	第1ユニット	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人の安心を確保し、信頼関係を築くために全職員が一人ひとりの気持ちの把握に努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って、不安や要望、困ったことを聞き、対応したいという気持ちを全職員が共有している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や家族の実情や必要に応じて納得いく支援を見極め、必要なサービスにつなげられるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が介護する側という意識を持たず、利用者の個性を大切にしている、また、暮らしの中の知恵を教えてもらい、暮らしをともにする家庭的な関係を築くようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り合ったり、来訪時には必ず要望などを聞いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やかつての隣人の来訪や通院時に知人と会話を楽しんでいる。自宅へ帰り、家族と団らんを楽しみ、これまでの関係が途切れないよう支援している。	家族や友人、かつての趣味仲間、隣人が訪れやすいように、職員は雰囲気づくりに配慮している。また、日ごろから利用しているスーパーに行ったり、入居前から利用している病院に通うなど、馴染みの環境で継続して生活できるように配慮している。本人や家族の希望に応じて、自宅への日帰りや外泊の支援等も行っている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないよう日中、利用者同士が会話をしたりともに暮らしを楽しめるよう支援している。みんなでリハビリ通院をして和気藹々と過ごしたり、一人で読書や新聞を読む人もいる。	

自己	外部	項目	第1ユニット		
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退居しても、相談があれば対応するよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意見を聞き、一人ひとりの思いや要望、意向にそえるよう努めている。要望が他の利用者や家族に影響がある場合は職員や利用者同士の意見を調整している。	利用者一人ひとりの思いや意向を把握しやすいアセスメントシートを採用し、数人で取り組んでいる。その他の職員の理解は不十分である。	多くの職員が、アセスメントシートを共有し活用できるように、より一層の理解と共通認識づくりに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らし方について、利用者の状況を把握して、職員間で情報を共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がよりよく暮らすための課題やケアのあり方を考えてモニタリングを行い、要望や変化に応じて現状に即した介護計画を作っている。	職員は、毎月のカンファレンスなど機会あるごとに、利用者や関係者の気付きや意見を出しあい、アセスメントシートの情報等もふまえて検討している。出された意見や要望、また変化等にも即した介護計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、日ごろの生活や気がついたこと、個別に工夫したことを記載して、職員間で情報を共有している。また、個別記録を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応している。急な歯痛による歯科の予約や通院介助など柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	第1ユニット	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活を継続できるよう、近隣の児童館の運動会や小学校の田植え稲刈りを見学させてもらっている。また、老人会による鈴虫の巣作りにも参加している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医療機関と連絡を密に取り、利用者一人ひとりの健康状態を把握している。かかりつけ医と相談し、眼科や歯科、耳鼻科、皮膚科などの専門医の受診も支援している。	利用者や家族の希望する皮膚科や歯科、眼科、整形外科等の専門医の受診ができるよう調整している。その際の送迎や付き添い、小手術の術前・術後の処置等は、家族と相談しながら職員が必要な支援を行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日ごとのかかわりの中で気づいたことを主治医や担当看護師に相談し、適切な医療につなげている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は心身にダメージをもたらすため、安心して早期に退院できるよう関係者と情報交換している。職員や管理者がお見舞いに行くこともある。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族の思いや意思にそうよう、母体法人の医療機関の医師や看護師、職員が連携し、安心して最期を迎えられるように支援している。	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時に本人や家族・関係者と話し合い段階に応じた対応方針等を確認している。職員間で対応方針を共有し、安心して過ごせるように支援している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した時は、協力医療機関や主治医に健康状態を報告し、適切な指示がもらえるような体制を築いている。緊急時のマニュアルに従って対応できるよう努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の状況を踏まえ、適切な避難誘導が出来るよう実践的に取り組んでいる。	年2回、消防署や防災設備業者の協力ののもと、利用者とともに避難訓練を実施している。同一法人の事業所間で連携体制を構築している。また、地域の協力については民生委員を通じて依頼している。

自己	外部	項目	第1ユニット		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう全職員が話し合い、利用者の情報収集や外部との情報連携の際には、取り扱いと管理に気をつけている。	全職員が、誇りやプライバシー等に関する研修の受講や話し合いを重ね、言葉かけや行動など一人ひとりの人格を尊重した対応を心がけている。排泄時の誘導や介助時には、特段の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者が思いや希望を実現できるように、職員は日ごろから利用者の意向の把握に努めている。これまでの生活歴や生活背景などを把握し、希望や思いに気づけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先せず、利用者一人ひとりのペースを大切に、希望にそった支援ができるように体制を整えている。全体行動が苦手な人などの希望にも耳を傾けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みや家族が持ってきてくれたものを使って、その人らしさを保てるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人や家族から好きなものや嫌いなものを聞いたり、生活のなかで利用者の好みを把握している。食事の準備を時々手伝ってもらっている。	職員は、利用者の好みの食材等を取り入れたメニューに配慮している。利用者一人ひとりに応じた調理方法により、常に食事が楽しめるよう工夫している。食前の箸配りや後片付け等、利用者が持てる力を発揮できるように勤めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をチェックし、体調や栄養バランスに注意して医療機関に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に誘導したり職員が手伝って、利用者の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	第1ユニット		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握している。オムツに頼らずトイレで排泄できるように、声かけを行って誘導している。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。スムーズな排泄やトイレ誘導の支援を行い、気持ち良くトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者が多いので、食物繊維の多い食材や乳製品、バナナなどを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴するのが好きな利用者の順番を最後にして、十分に時間をとって入浴できるよう工夫している。	入浴する順番への配慮や嫌がる利用者への声かけの工夫等を行っているが、週に3回入浴できる曜日や時間帯があらかじめ決められている。	入浴日や時間帯について、より柔軟な対応ができるよう関係者間で協議・検討を行い、工夫されることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、ゆっくり眠れるように日中は食堂や居間、庭で楽しく過ごしてもらっている。また居室で休息したい方には無理強いをせず、利用者の生活習慣に合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や用途を理解している。処方の変更があった時は全職員が理解できるよう努めている。症状に変化があった場合に、医師に報告できるように日ごろから注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前から好きだったことや読書、歌、折り紙、俳句、庭作りなどを楽めるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	庭の散歩やスーパーへの買い物、リハビリでの通院等、日常的に戸外へ出かける機会が多い。また、桜やバラ見物、運動会、神社へのお参り等の外出も計画的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			第1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を事業所が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方の家族からよく電話がある利用者がいる。家族と会話することで安心するので電話などでの交流を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、刺激の強いものを避けるようにしている。また、季節ごとの飾りつけをして季節感を取り入れる等、居心地よく過ごせるように工夫している。	食堂や居間は明るい。玄関から廊下にかけて季節の飾りつけや生け花が飾られたり、利用者の作品や行事での写真等も壁に貼られている。椅子だけでなく畳の間もあり、居心地よく落ち着いて過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で団らんを楽しんだり一人で折り紙を楽しむなど、くつろいで過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた品を持ち込んでもらっている。	広い居室に押入れの設備がある。好みの家具や器具を持ち込みすっきりと配置されている。地デジ対応のテレビや孫・ひ孫の写真趣味の折り紙なども飾り、その人らしい空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの力に応じて、手摺りなどを必要な場所に増設している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が目指すサービスのあり方を表した理念をつくり、日ごろから実践している。具体的な支援方法を職員間で話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と利用者がつながりあいながら暮らせるように、地域の一員としてできるだけ行事に参加している。小学生との田植えや稲刈り、運動会、鈴虫の巣作りに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解のため、小学生などの見学を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者や家族、地域の方と話し合い、交流の場を設けている。利用者の意見を聞き、サービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当課と日ごろからサービス内容や入居報告、事故の報告などを行い、話し合う機会を設けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束の具体的な行為を理解して、身体拘束をしないケアを全職員が取り組んでいる。やむを得ず身体拘束をする場合は家族の同意を得るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設け、管理者や職員による虐待がないよう徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は権利擁護に関する知識が不十分なため、日常生活自立支援事業や成年後見制度について必要な時に活用できるよう研修が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、改定などのときは、十分に説明し、不安や疑問に答えるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見や要望を職員や外部の人に話せる機会を設けている。また家族の来苑時に利用者の様子を話している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者や代表者は職員が働きやすい環境で向上心を持って働けるよう心がけている。職員の希望にそったシフトを作成している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の努力や実績に応じて給与や労働条件を改善できるようにまた、やりがいをもてるように研修によるシフト変更や書籍購入したり環境、条件整備につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の重要性を認識し、全職員の資質向上が図れるよう研修や試験を受けやすいよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所は全国グループホーム協会に加入し、サービスの質の向上に取り組んでいる。地域の他事業所と相互研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で、家族の意見や利用者の様子、不安に思っていることを聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で、家族の意見や要望を聞き、必要なサービスにつなげられるよう信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は支援される側、支援する側という関係ではなく、ともに支え合う関係を築けるように利用者の尊厳を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方的立場と考えずに、協力して利用者を支え合うという関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の来苑があり、継続的な交流ができています。家族と外出する機会が持てるよう働きかけています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう日中、食堂で団らんの時間を設けている。孤立しがちな方には、職員がさり気なく誘導している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退居しても要望があれば、移り住む先の関係者に情報を伝えている。家族の相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向にそえるよう、希望の把握に努めている。日ごろのかかわりの中で声かけに努め、言葉や表情から真意を推し測っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの健康状態や生活歴、これまでのサービス利用の経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や生活リズムにそって、利用者の状況を総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がよりよく暮らすための課題やケアのあり方を考えてモニタリングを行い、要望や変化に応じて現状に即した介護計画を作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの生活のなかの出来事を記録している。利用者の言葉やしぐさ、気づきを大切に、ケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、柔軟な支援をしている。計画等にとらわれず、臨機応変な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会や保育園、小学校などに協力してもらい、利用者が安心して生活を送れるよう支援している。運動会や鈴虫の葉作り、田植え体験の見学に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医療機関の医師が主治医となっており、日ごろから利用者の健康状態を把握して診察や健康診断をしている。また助言や指示を受け、必要に応じて専門医の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、発熱や食欲不振などの利用者の状態を医師や担当看護師に相談し、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	馴れない場所での入院や治療による精神的肉体的な負担を軽減できるよう、病院関係者に本人の支援方法や状態などの情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族の思いや意思にそうよう、母体法人の医療機関の医師や看護師、職員が連携し、安心して最期を迎えられるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した時は、協力医療機関や主治医に健康状態を報告し、適切な指示がもらえるような体制を築いている。緊急時のマニュアルに従って対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や防災装置等点検業者の指導のもと、消防署への通報訓練や避難誘導、水消火器での消火訓練を実施している。地域住民との話し合いなど、協力体制は十分とはいえない。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう全職員が話し合い、利用者の情報収集や外部との情報連携の際には、取り扱いと管理に気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情などから利用者一人ひとりの意向を把握して、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして、その日をどのように過ごしたいか把握し、利用者の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけその人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは利用者の好みや食べられるものを用意している。苦手な食事の時には、代替食を用意している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をチェックして、量の変化や、異常に応じて医師に相談・報告をしている。必要に応じて点滴などの処置をしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の力に応じて歯磨きなどを手伝い口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。一人ひとりに応じた声かけや誘導、トイレ介助をして、おむつだけに頼らないよう心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者が多いので、食物繊維の多い食材や乳製品を摂ってもらうよう心がけている。利用者一人ひとりの状態にあわせて下剤や浣腸を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴するのが好きな利用者の順番を最後にして、十分に時間をとって入浴できるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、ゆっくり眠れるように日中は食堂で過ごし、他の利用者や職員と交流ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や用途を理解している。処方の変更があった時は全職員が理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好、楽しみごとを把握し、できることをしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。以前住んでいた場所や買い物、神社など出かけられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持している利用者や家族からお金を預かり事業所が管理している利用者がある。金銭を管理する場合は、家族に残額確認をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる家族と、電話や手紙、荷物のやりとりができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花を飾り生活感や季節感を取り入れている。共用空間は掃除や整理を心がけ、清潔に保っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂は、自由に出入りして囲らんができるようになっている。利用者が思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具や好みの品を持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの力に応じて、手摺りなどを必要な場所に増設している。		